

M-GTA 研究会 News letter no. 54

編集・発行：M-GTA 研究会事務局（立教大学社会学部木下研究室）

メーリングリストのアドレス：grounded@ml.rikkyo.ac.jp

研究会のホームページ：<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/MGTA/index.html>

世話人：阿部正子、小倉啓子、木下康仁、小嶋章吾、坂本智代枝、佐川佳南枝、竹下浩、
塚原節子、都丸けい子、林葉子、水戸美津子、三輪久美子、山崎浩司（五十音順）

＜目次＞=====

◇第 57 回定例研究会のご案内	…	1
◇第 4 回修士論文発表会のご案内	…	2
◇近況報告：私の研究	…	3
◇編集後記	…	5

=====

◇第 57 回定例研究会のご案内

＜プログラム＞

【日時】 2011 年 5 月 28 日（土） 13：00～18：00

【場所】 立教大学（池袋キャンパス）14 号館 3 階、D301 教室

1. 総会

2. 【研究発表 1】

「臨床心理実習におけるスーパービジョン(SV)において、スーパーバイザー(SVor)が面接者としての力をつけようと、スーパーバイジー(SVee)を指導していくプロセスに関する研究」

発表者：丹野ひろみ（桜美林大学）

SV： 木下康仁（立教大学）

3. 【研究発表 2】

「ソーシャルワーク・スーパービジョンの意義と課題」

発表者：浅野正嗣（金城学院大学）

SV： 山崎浩司（東京大学）

4. 【構想発表 1】

「産科医療施設に勤務する看護職者の『気になる親子』に対する『気づき』から『連携』へのプロセス—周産期からの児童虐待予防を目指して—

発表者： 唐田順子（西武文理大学）

SV： 林葉子（お茶の水女子大学）

5. 全体質疑

◇第4回修士論文発表会のご案内（その2）

【日時】2011年7月16日（土） 10：20～18：00

【場所】東京大学（本郷キャンパス、法文2号館2階、1番大教室）

1. 概要

M-GTAを活用して修士論文を書き上げた学位取得者たちに、その領域的知見と方法論的な苦労や工夫について発表してもらい、後学の参考とする。また、現在M-GTAを活用して修士論文にとりかかろうとしている、あるいは、とりくんでいる修士課程生にも構想発表をもらい、スーパーバイザーやフロアとのやり取りを通じ、研究の洗練を促す。本発表会は、M-GTA研究会の定例会の一環として実施するが、各地域のM-GTA研究会と連携して運営する。また、参加者を完全に会員に限定せず、若干の公開性をもたせる。（ただし、事前登録なしの飛び入りは認めず、参加登録は会員を優先し、最大定員を約220名とする。）

2. 内容

当日の進行については現在以下のように予定しています。発表者やSVの詳細は後日お伝えします。

10：20～10：30 開会挨拶・趣旨説明

10：30～12：00 成果発表1

12：00～13：00 昼食

13：00～14：30 構想発表1

14：30～14：40 休憩

14：40～16：10 構想発表2

16：10～16：20 休憩

16：20～17：50 成果発表2

17：50～18：00 閉会挨拶

18：30～ 懇親会

◇近況報告：私の研究

白旗希実子（日本学術振興会特別研究員（P D））

研究会に入会させていただいております白旗希実子です。日本学術振興会特別研究員（P D）として研究を進めております。「大学教育・実習・研修システムの国際比較分析からみる介護専門職の新たな可能性」を研究課題とさせていただいております。専門職としての質の向上を目指す為の体系的・継続的な“教育”を展開する為に、①教育機関・職場・専門職団体が行う“教育”の実態を明らかにし、②その教育内容の重複・分断を指摘すること、及び③それらが生じる一要因となっている制度的枠組みの限界を指摘すること、更に④他国との比較により日本の介護専門職の教育の特殊性を指摘することを研究の目的としております。介護専門職養成における“教育”の棲み分けは、絶えず変化する動的なものであるため、その構造を描き出すためには、質的調査を研究に組み込むことが最良であると考えました。そこで、データに密着した分析から、説明力のある概念を創っていく、M-GTAを研究の質的研究に応用していこうと考えました。現在、大学教員へのインタビューを進めているところです。難しいと感じる点は、分析を進める中で、ある一定の方向に収束するといった際に、その方向性が正しいのかどうか判断に迷うことです。その時には、研究仲間に相談したり、インタビューデータを増やすために再度インタビューを行ったり、インタビューをさせていただいた方に見ていただいたりして、慎重に分析を進めております。M-GTAを用いることにより、1つのデータを多角的な視点より捉える事ができるようになり、そこに面白さを感じております。若輩者ですが、これからも研究会で学ばせて頂きたいと思っておりますので、よろしくご指導お願い致します。

.....

塩谷久子（広島国際大学、医療福祉学部）

私は高齢者介護の領域で研究をしておりますが、最近は介護福祉学の構築に関心を持ち、近接領域の方々と共同研究を進めております。教育の方は社会福祉士及び介護福祉士法の施行以来、社会福祉士と介護福祉士の養成に携わってきました。

M-GTA研究会にはずいぶん前から参加させていただいております。私は、その当時取り組んでいた「高齢期の生涯学習」が介護予防に有効であることを追及した研究の中で、高齢者大学を終了した人たちが同好会を立ち上げていく過程に強い関心を持ちました。これを何とかして説明したいという願いがあり、どのような研究手法を用いるのがよいか悩んでいました。そのときに、大学の同僚から、M-GTAの存在を教えていただいたのが、私とM-GTAの出会いです。

広島県からですので、立教での研修会は、毎回参加というわけには行きませんでした、木下先生の本を何度も読みながら、出席させていただき、刺激を受けては、また読み返すということを繰り返していました。結局、その研究は違ったかたちでまとめることになったのですが、M-GTAへのいつか、この手法でという気持ちは続いておりました。

そうこうするうちに、本学の大学院に小嶋章吾先生が非常勤講師として来られていますので、院生の中でM-GTAへの関心が高まり、修士論文でM-GTAを用いるケースがいくつかあり、私が査読者としてかかわるようになりました。院生一人ひとりのデータの解釈や概念の生成、概念間の関係など興味深く、ますます、研究方法に魅力を感じるとともに自分の勉強不足を痛感していました。そのため、昨年の夏は岡山の合同研究会に出席させていただきました。実践的で大変有意義でしたが、あっという間に研修は終わり時間の短さを感じました。次回の研修時間はもっと、長くなりませんか。

現在は指導している院生（修士課程）が、ピック病専門のグループホームに開設当時勤務していたスタッフが、どのような意識でピック病ケアの確立に向けて取り組んでいたかを明らかにしたいという目的で、M-GTAの分析手法を用いて研究していますので、分析作業と一緒に悩みつつ、検討をしております。また、幸い本学ではM-GTAに詳しい教員も何人かおり、この分析方法で博論を書いた真砂先生も身近におられますので、心強い限りです。今後も、できる限り研究会に出席し、研鑽に努めたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

.....

高橋 直美 （東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科）

私は現在東京医科歯科大学大学院博士後期課程（精神保健看護学分野）に在籍しております高橋直美と申します。初めて M-GTA 研究会に見学参加させていただいてから、もうすぐ1年が経過いたします。

研究会では様々な分野でご活躍なさっている皆様の貴重な取り組みに触れ、大変多くの刺激を受けております。私にとってこの研究会は研究方法についての学びを深めるだけでなく、研究報告を通して“何とか現場を良くしていきたい”という皆様の熱意と、研究を進める中で味わう苦労や楽しさを共有する体験となっています。そしてそのことが、自分の研究を進める原動力の一つとなっているように感じております。

さて、私はこれまで精神科急性期病棟や地域の訪問看護ステーションで精神疾患を抱える患者さんの看護ケアに携わってきました。現在日本の精神科医療を取り巻く状況は入院医療から地域医療へと大きく変わろうとしています。ところが、地域の支援体制や患者さんの地域生活を支えるための精神科急性期医療体制の整備はまだ十分とは言えない状況が続いています。そこで現在私は精神科医療の基盤である患者さんと医療者のコミュニケーションの質的な検討に立ち返り、医療者に求められる援助的なコミュニケーション技

法とその学習方法を明確にすることを目的に、精神科急性期病棟での研究に取り組んでおります。研究の中では主に病棟の看護職に対して、EQ 理論や社会学におけるコミュニケーション論を取り入れた教育支援プログラムを行い、患者—医療者双方の感情に焦点を当てたコミュニケーション技法の開発を試みています。

現在この教育支援プログラムがやっとのことで終了したばかりで研究の初期の段階ではありますが、今後皆様にご相談させていただく機会もあるかと思えます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

.....

◇編集後記

・新緑がきれいな季節とは裏腹に、震災後、さわやかな気分になれない日々が続いておりますが、前進しなくてはならない時期にも来ているとも感じています。私たちの会も新たな1年を迎えようとしています。これからも、皆様のご協力を得て、よりよい会にしていきたいと思っております。積極的なかわりをお願いいたします。（林）

・暑がり＆汗っかきなもので、今年は諸般の影響もあり職場のクールビズが1カ月早まり1カ月延長（5月から10月末まで）となったことは、ほっとしました。皆様のご所属先ではいかがでしょうか。ただ、昨日の最高気温は16度で今日は26度（！）と、却って油断はできないというか、予測ができないというか。こういうのも、温暖化の影響でしょうか…皆様も体調管理にはお気をつけ下さいませ。（竹下）

・あっという間に5月も20日を数えることとなりました。「5月病」なんていう言葉があるように、今月は心身ともに不調であった方も多々いらっしゃるのではないかと思います。かくいう私も、今月はけっこう不調です(_ _)。現在、なんとか立て直さねばと四苦八苦しております。

ところで、白旗さん、塩谷さん、高橋さん、「近況報告」のご執筆をありがとうございました。M-GTAを活用するご苦労だけでなく、M-GTAとどのように出会い、どのように付き合ってきたのか等も窺えて、会員の皆さんにとってとても参考になったのではないかと思います。

塩谷さんのご報告からもお分かりのように、「近況報告」は必ずしも現時点で自分がM-GTAを使って研究していなくてもいい、ということではありません。したがって、「今はもうM-GTAを使って研究していない」という方も、ぜひご執筆をお願いいたします。ただ、

何を書けばいいのかと疑問に思う方もいらっしゃるかもしれません。その場合、現在やっておられる研究で使っていらっしゃる方法と M-GTA とを比較することで見てくること、あるいは、研究からも遠ざかっておられるようならば、現在されておられる臨床、教育、その他のお仕事を、M-GTA を活用して研究した経験をとおしてとらえなおすことで思いついたことなどについて、ご報告いただきたく存じます。

また、塩谷さんのようにご自分の指導院生が M-GTA を活用している場合は、その指導を通して感じになったことやご苦労されたことなどをお書きいただけると、会員の皆さんにとって実りが多いのではないかと思います。

さらに、「まだ M-GTA を使っていないが、これから使うかもしれない」という方も、ご自分の研究関心との絡みで M-GTA にどんなことを期待されるのか等について、ぜひご報告ください。重ねてよろしくお願い申し上げます。

最後にお知らせです。上記にお示ししましたように、7 月 16 日（土）に東京大学本郷キャンパスにおいて、第 4 回修士論文発表会を開催いたします。今回は前回（岡山で合同研究会の一部として開催）と同じく、東京以外の各地 M-GTA 研究会の世話人やスーパーバイザーが運営に協力して下さいますし、全体で 200 名以上収容できる会場で行いますので、皆さんどうかふるってご参加ください。プログラムや参加登録などの詳細は、恐らく 6 月初旬までにはお伝えできると思います。楽しみにお待ちしております！（山崎）